

# 後期青年期女子のファッション選好と異性に対する態度

——女子学生を対象とする量的調査より——

○福岡県立大学 中村晋介  
北九州市立大学 阪井俊文

## 1 目的

本研究は、後期青年期女子の社会意識に焦点をあてたものである。「普段着用しているファッション」によって女子学生（大学生，専門学校生）をいくつかのグループに分類した上で，グループ間での社会意識の差を調べていった，特に注目したのは，1)ファッション選好の基準，2)恋愛観，3)恋愛に対する積極性，4)ジェンダー観，5)性差観の3点である．今回は，主として異性に対する態度（恋愛に対する積極性，ジェンダー観／性差観）に関して得られた知見を報告する．

## 2 方法

2017年10月～11月にかけて，福岡県内に所在する大学5校（公立2，私立3），専門学校4校（看護系2，アニメ・マンガ系1，美容系1）に通う女子学生（対象年齢18～22歳）を対象とした量的調査を実施した．講義終了後の休憩時間などを用いて，自記式調査票を配布・回収した．調査票の質問項目，調査方法，データ管理などの過程については，福岡県立大学研究倫理委員会の審査を通過している．1500票を配布し，1303票の有効票を得た（回収率86.9%）．

女子学生には，特定のファッション誌の記事を基準として，自分が着用する服を選択する傾向がある．女子大学生7名の協力を得て，ファッション雑誌20誌を対象とした分析を行った．具体的には，雑誌が紹介するファッションの画像や記事内容に関するイメージを想起させ，その内容をKJ法によって4種類に分類した．すなわち1)カジュアル系，2)お姉系，3)個性重視系，4)クラブ・ギャル系の4系統である．雑誌が提唱するファッションのグルーピングに関しては，計量調査にもとづく複数の先行研究が存在するが（e.g.栗田2016，佐々木2011），この分析結果はそれらと整合性をもっていた．

## 3 結果

恋愛観，ジェンダー観，性差観に関する質問群の結果を因子分析にかけ，恋愛観尺度(6種類)，古典的ジェンダー観尺度，セクシズム尺度などを作成した．着用しているファッション別に，これら尺度の因子得点を比較したところ，クラブ・ギャル系の服を好んで着用しているグループで，恋愛積極性の高さ，恋愛観における「恋愛向上志向」や「恋愛没入志向」の高さ，伝統的ジェンダー観の強さ，男性に対する敵意的セクシズムの強さといった特徴が現れた．このグループには，高校時代にあまり学校文化になじめなかった者，男性とのコミュニケーションもそつなくこなせる者が多いことも明らかになった．

## 4. 結論

クラブ・ギャル系のファッションを着用する女子学生は，恋愛向上志向や愛没入志向が高く，伝統的ジェンダー観も強い．また，男性と友人関係や恋愛関係を構築することにも積極的である．しかし，彼女たちのこういった態度は，交際した男性から「重い」と評価されてしまい，恋愛関係が比較的短期間で破局を迎える．このプロセスを繰り返していった結果，恋愛への積極性，伝統的ジェンダー観と，男性に対する敵意的セクシズムの高さが並立するのではないだろうか．

## 文献

栗田宣義,2016,「『non-no』から始めよう」『新社会学研究』No.1:164-171

佐々木孝侍,2011,「ファッション雑誌の読書傾向にみる瘦身志向性の差異」『繊維製品消費科学』vol.52-2:107-112.